

平成24年度
福井大学大学院工学研究科博士前期課程
一般選抜学力試験(物理工学専攻)

基礎科目

試験時間

9:00 - 10:00

全問を解答すること

1 独立変数 x の関数 $y_1 = y_1(x)$ と $y_2 = y_2(x)$ が,

$$\begin{cases} \frac{dy_1}{dx} = 4y_1 + 3y_2 - x \\ \frac{dy_2}{dx} = -2y_1 - y_2 + x \end{cases}$$

を満たし, $y_1(0) = y_2(0) = 1$ であるとする。以下の問に答えよ。

(1) $Y_1 = y_1 + y_2$ とおくととき,

$$\frac{dY_1}{dx} = 2Y_1, \quad Y_1(0) = 2$$

が成り立つことを示し, Y_1 を求めよ。

(2) $Y_2 = ay_1 + by_2$ が,

$$\frac{dY_2}{dx} = Y_2 + x \quad \dots\dots\dots (A)$$

を満たすように定数 a, b の値を定めよ。

(3) (2) で定めた a, b に対し, 微分方程式 (A) を解いて Y_2 を求めよ。

(4) y_1 と y_2 を求めよ。

2

スカラー場 φ を $\varphi = x^2z + y^2$, ベクトル場 A を $A = \text{grad } \varphi$ と定義する。また, x, y, z 軸の正の方向を向いた単位ベクトルを, それぞれ, i, j, k とする。

- (1) A を求めよ。
- (2) スカラー場 $\psi = \text{div } A$ を求めよ。
- (3) ベクトル場 $B = \text{rot } A$ を求めよ。
- (4) 任意の点で $\text{rot } P = A$ を満たすようなベクトル場 P は存在しないことを証明せよ。

更に, 曲線 C を以下のように媒介変数 t を用いて定義する。

$$\mathbf{r} = (\cos t)\mathbf{i} + (\sin t)\mathbf{j} + t\mathbf{k} \quad (0 \leq t \leq 2\pi)$$

ただし $\mathbf{r} = x\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}$ である。また, 媒介変数 t の値が 0 および 2π に対応する点をそれぞれ C の始点および終点とする。

- (5) 曲線 C の長さ

$$L = \int_C ds$$

を求めよ。ここで, 積分変数 s は C の弧長を表し, $ds = \left| \frac{d\mathbf{r}}{dt} \right| dt$ で定義される。

- (6) スカラー場 φ の曲線 C に沿っての線積分

$$I = \int_C \varphi ds$$

の値を求めよ。

- (7) ベクトル場 A の曲線 C に沿っての接線線積分

$$J = \int_C \mathbf{A} \cdot d\mathbf{r}$$

の値を求めよ。

なお, この積分は接線単位ベクトル(単位接ベクトル) $\mathbf{t} = \frac{d\mathbf{r}}{dt} / \left| \frac{d\mathbf{r}}{dt} \right|$ を用いて

$$J = \int_C \mathbf{A} \cdot \mathbf{t} ds$$

と表記されることもある。

平成24年度
福井大学大学院工学研究科博士前期課程
一般選抜学力試験(物理工学専攻)

専門科目

試験時間

10:15 - 11:15

全問を解答すること

1 電荷も電流も存在しない真空中の電磁場について、以下の問に答えよ。

- (1) 電荷も電流も存在しない真空中でのマクスウェルの方程式を、電場の大きさ E 、電束密度 D 、磁場の大きさ H 、磁束密度 B を用いて書け。
- (2) 真空中の E と D 、 H と B の関係を、真空の透磁率を μ_0 、および真空の誘電率を ϵ_0 として、それぞれ書け。

次に、ベクトル場 $A(\mathbf{r}, t)$ を用いて、電磁場が

$$\mathbf{E}(\mathbf{r}, t) = -\frac{\partial \mathbf{A}(\mathbf{r}, t)}{\partial t}$$

$$\mathbf{B}(\mathbf{r}, t) = \nabla \times \mathbf{A}(\mathbf{r}, t)$$

であらわされる場合を考える。

- (3) ベクトル場 $A(\mathbf{r}, t)$ が、方程式

$$\nabla^2 \mathbf{A}(\mathbf{r}, t) - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \mathbf{A}(\mathbf{r}, t)}{\partial t^2} = 0$$

$$\nabla \cdot \mathbf{A}(\mathbf{r}, t) = 0$$

を満たすことを示せ。必要ならば、任意のベクトル C に対して成立する、以下のベクトル公式を用いよ。

$$\nabla \times (\nabla \times \mathbf{C}) = \nabla (\nabla \cdot \mathbf{C}) - \nabla^2 \mathbf{C}$$

2 質量 m の単原子分子 N 個からなる古典理想気体が、体積 V の容器に入っており、温度 T の熱浴に接しているものとする。三次元空間における N 個の分子の位置および運動量ベクトルを、それぞれ、 \mathbf{r}^N および \mathbf{p}^N とする。ただし、 \mathbf{r}^N は N 個の分子の位置ベクトルの集合 $\{\mathbf{r}_1, \mathbf{r}_2, \dots, \mathbf{r}_N\}$ を表しており、 $d\mathbf{r}^N \equiv d\mathbf{r}_1 d\mathbf{r}_2 \cdots d\mathbf{r}_N$ とする。 \mathbf{p}^N についても同様である。この系に関して以下の問に答えよ。

- (1) 分子 i の運動エネルギー K_i を、 m および \mathbf{p}_i を用いて表せ。
- (2) この系のハミルトニアン H を、 m および \mathbf{p}_i ($i = 1, 2, \dots, N$) を用いて表せ。
- (3) 正準集団を考える。この系の分配関数 Z は次式で表される。

$$Z = \frac{1}{N! h^{3N}} \int \int e^{-H/k_B T} d\mathbf{r}^N d\mathbf{p}^N$$

ここで、 h はプランク定数、 k_B はボルツマン定数であり、積分範囲は、この系で考えられるすべての空間および運動量範囲とする。この積分を実行し、 Z が次式で表されることを示せ。

$$Z = \frac{V^N}{N! h^{3N}} \left(\sqrt{2\pi m k_B T} \right)^{3N}$$

なお、必要なら以下の公式を使用してもよい。

$$\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dx = \sqrt{\frac{\pi}{a}} \quad (a > 0)$$

- (4) N 個の各分子の位置ベクトルが $\mathbf{r}_i \sim \mathbf{r}_i + d\mathbf{r}_i$ 、運動量ベクトルが $\mathbf{p}_i \sim \mathbf{p}_i + d\mathbf{p}_i$ ($i = 1, 2, \dots, N$) の範囲にある確率 $f^{(N)}(\mathbf{r}^N, \mathbf{p}^N) d\mathbf{r}^N d\mathbf{p}^N$ を、 $Z, H, N, T, k_B, h, d\mathbf{r}^N, d\mathbf{p}^N$ の中から必要なものを用いて書き表せ。
- (5) $f^{(N)}(\mathbf{r}^N, \mathbf{p}^N) d\mathbf{r}^N d\mathbf{p}^N$ を、 $\mathbf{r}_1, \mathbf{r}_2, \dots, \mathbf{r}_N$ および $\mathbf{p}_1, \dots, \mathbf{p}_N$ について積分することにより、1 番目の分子の運動量ベクトルが $\mathbf{p}_1 \sim \mathbf{p}_1 + d\mathbf{p}_1$ の範囲にある確率 $f^{(1)}(\mathbf{p}_1) d\mathbf{p}_1$ が得られる。 $f^{(1)}(\mathbf{p}_1) d\mathbf{p}_1$ を計算し、 $\pi, m, k_B, T, \mathbf{p}_1, d\mathbf{p}_1$ を用いて表せ。
- (6) 確率密度 $f^{(1)}(\mathbf{p}_1)$ が、マックスウェル-ボルツマン分布

$$f_{\text{MB}}(v_x, v_y, v_z) = \left(\sqrt{\frac{m}{2\pi k_B T}} \right)^3 \exp \left[-\frac{m(v_x^2 + v_y^2 + v_z^2)}{2k_B T} \right]$$

に等しいことを示せ。ただし、 (v_x, v_y, v_z) は分子の速度である。

平成24年度
福井大学大学院工学研究科博士前期課程
一般選抜学力試験(物理工学専攻)

外国語(英語)

試験時間

11:30 - 12:30

全問を解答すること

1 以下の英文は，Schrödinger による，ノーベル賞講演の冒頭部分である。各小問に答えよ。

The fundamental idea of wave mechanics

On passing through an optical instrument, such as a telescope or a camera lens, a ray of light is subjected to a change in direction at each refracting or reflecting surface. The path of the rays can be constructed if we know the two simple laws which govern the changes in direction: the law of refraction which was discovered by Snellius a few hundred years ago, and the law of reflection with which Archimedes was familiar more than 2,000 years ago. As a simple example, Fig. 1 shows a ray A-B which is subjected to refraction at each of the four boundary surfaces of two lenses in accordance with the law of Snellius.

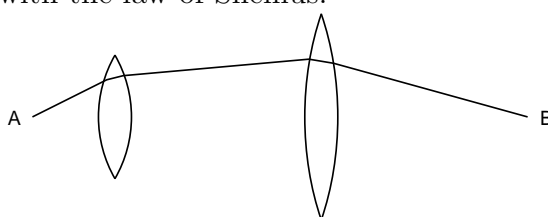


Fig. 1.

Fermat defined the total path of a ray of light from a much more general point of view. In different media, light propagates with different velocities, and the radiation path gives the appearance as if the light must arrive at its destination *as quickly as possible*. (Incidentally, it is permissible here to consider any two points along the ray as the starting- and end-points.) The least deviation from the path actually taken would mean a delay. This is the famous Fermat *principle of the shortest light time*, which in a marvellous manner determines the entire fate of a ray of light by a single statement and also includes the more general case, when the nature of the medium varies not suddenly at individual surfaces, but gradually from place to place. The atmosphere of the earth provides an example. The more deeply a ray of light penetrates into it from outside, the more slowly it progresses in an increasingly denser air.

[instrument 機器, refract 屈折させる, reflect 反射する, media 媒質 (複数形), atmosphere 大気, Snellius (人名) スネル, Archimedes (人名) アルキメデス, Fermat (人名) フェルマー]

- (1-1) 題名 (太字の部分) を訳せ。
- (1-2) 第 1 段落全文 (Fig. 1 までの全文) を訳せ。
- (1-3) Fermat の原理を日本語で説明せよ。
- (1-4) 下線部の状況を，図を用いて説明せよ。

2 以下の日本語を英語に訳せ。

津波の高さは、地震 (earthquake) の強度だけでなく、波の伝わる方向や地表面上の反射にも依存する。津波の速度は重力加速度 (acceleration of gravity) と水深の積 (product) の平方根によって決まる。深さが減るほど、津波は遅く進む。その結果、岸辺では津波の高さが増加する。